

## 令和5年度第3回二宮町施設一体型小中一貫教育校設置研究会

日時：令和6年1月12日（金）14：30～16：30

場所：二宮町町民センター 2Aクラブ室

出席者：17名

原会長、山内副会長、片岡会員、宮戸会員、小林会員、三好会員、協会員、  
和田会員、中西会員、北川会員、藤田会員、藤原会員、杉本会員、古正会員、  
森会員、野谷会員、渡辺会員

欠席者：7名

池田会員、渡邊会員、八幡会員、村田会員、齋藤会員、伊庭会員、岡野会員

傍聴者：1名

配布資料：・次第

- ・資料1 喫緊の課題と解決のための取り組み
- ・資料2 二宮町の小中学校における喫緊の課題と施設一体型小中一貫教育校の意義
- ・資料3 にのみや学園（小中一貫校）実現に向けたCS統合の進め方について
- ・参考資料1 二宮町施設一体型小中一貫教育校設置研究会名簿

## 議事要旨

<b>1. 開会</b>	
事務局	<ul style="list-style-type: none"><li>・資料確認</li><li>・傍聴の可否→可（入室案内）</li><li>・新規会員紹介と挨拶</li></ul>
<b>2. 会長あいさつ</b>	
会長	<ul style="list-style-type: none"><li>・研究会最終の年になり、いよいよ先が見えてこないといけない時期に来た。今後の開催時期は、間隔が短い場合があるが、事務局と調整する。</li><li>・本日は、第2回の協議を受けて話し合っていく。</li></ul>
<b>3. 協議</b>	
<b>(1) 喫緊の課題とその対応策について（資料1）</b>	
会長	<ul style="list-style-type: none"><li>・資料1について、以前メールで送ったが、その後ある会員さんからもっと細分化した方がよいだろうという意見をいただき今回の資料1の形にした。</li><li>・優先順位については、今すぐに解決しなければいけない1番と、将来のために早急に対応しなければいけない1番の二つあると思っている。また、これは優先的だろうという意見があれば言ってほしい。</li><li>・目指す目標については、昨年の研究会でデンマークの話聞いて考えた、子どもたちの幸せのためといったところを主眼に置いた時に、どういうことを目指さないといけないのかということ考えている。</li></ul> <p>(以下、資料1の各項目の説明時の補足を記載)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・不登校問題について オルタナティブスクールという言葉は、通常教育過程とは異なる通室内容が認められる文科省が言うところの「学びの多様化学校」で、教育課程の基準によらず、特別の教育課程を編成できる学校の意味で使った。こういった学校をつくることも、子どもたちを救う手立てになるかも知れないと考えた。いわゆるイエナプランやモンテッソーリなど、様々な学校の種類があり、その総称で、既存の画一的な教育ではなく、むしろ子どもたち自身で作っていく学校。</li><li>・小規模校について 小規模校を解消することを考えると学区を再編する必要がある。そのためには、早速再編案を作成する必要がある。</li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設、設備について トイレは災害時に避難所として地域住民が利用するものでもあるので、町の共有財産として改修等が必要なのではないかと。</li> <li>今年度の水泳授業が、各クラス1コマだけだったので意見が上がったのだと思う。水泳時間の増加について、教育委員会の考えを聞きたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度において、プールの授業時期を9月まで延長し、各クラス2時間1コマだったものを、2時間で3コマできるように考えている。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との関わりについて PTA 加入者が減っていると聞いている。PTA に加入していると役員になるなどやることが多い。子どもが小学生になると学校に行っている時間に仕事をしたいと思う方が多くなっている時代。時代に合わせた負担軽減の工夫や魅力を作っていく必要があるだろうと思う。</li> </ul>
(質問・意見等)	
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫の実感がわからないといった感想が挙げられているが、どういった立場の方のご感想なのか。例えば、学校の現場はどのように感じているかお聞きしたい。</li> </ul>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>12 月末、学校のホームページに載せた学校だよりで触れているので、それを読んでいただくと分かると思うが、例えば、小学校と中学校の9年間の学びについて先生たちは考えているとかが、どの学校でも同じような学び方をしてくれて、私たちから見ると子どもたちはものすごく安定して学習をしている。小中一貫教育は物ではないので目に見えにくい。小学校同士の交流、小学校と中学校の交流は、二、三年前に比べたら増えているので、そのことを分かっていたいただければ実感がわくのではないかと。分離型なので、あまり変化が感じられないと捉えられても仕方がないが、できるだけホームページや学校だよりなどで、発信する努力はしているつもりである。</li> </ul>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年春の開校のビフォーアフターで、目に見えず形にはならないけれど、何か空気が変わったと感ずることがあればお聞きしたい。</li> </ul>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生の姿勢が変わった。そしてクラスが変わり、学年、学校が変わっていった。学習だけではなく、実は問題行動が起きにくく、また、深刻化しなくなった。学級がすごく温かい雰囲気になり、各校の先生たちにゆとりが出てきたなど、予測していなかった成果や効果が</li> </ul>

	<p>出てきたと感じている。手応えとして感じている先生もいると思う。細かいことになるが、5年、10年前は授業に集中していない子への指導で授業が止まっていたが、今はそういった指導はほとんどなく、皆が授業に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTという1人に1台のタブレットが入ったことが、すごく効果があり、子どもたちはこれに遅れたくないという気持ちがあり、学習に入ってくる。色々な相乗効果があり、小学校からChromebookを使っているの、質が格段と上がり、中学校で上手なプレゼンテーションができてきている。ここは広報しづらい部分だが、そういうところで感じていただけるとありがたい。</li> </ul>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のお話を聞き、コロナは私たちにとってショックで痛いものだったが、ICTに関してはコロナに後押しされてピンチをチャンスに出来た良い例なのではないかと思った。</li> </ul>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月と10月に2回、中学校に足を運ぶ機会あった。部活動だけではなく、授業を見たことで、中学校を感じ、憧れや不安の解消にも繋がったと思う。総合的な学習の時間では、見学だけではなく、中学生が取り組んだことを一緒に考えた。子どもたちの実感として、中学校では総合的な学習の時間でこういったことに取り組み、今の6年生の立場で考えられたことで、中学校ではこのように考えを深めていけばよいのかということをもとにすることができたという意見があったので、小中の交流においてすごく有効だった。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分離型の良さは、今後の施設一体型をつくる上での手がかりになると思うので、今後もホームページや広報紙で伝えていただきたいと思う。</li> </ul>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからは9年間のカリキュラムを使った中で、1年生から4年生までは従来通り教科担任制ですか。担任の先生が授業をするということで、高学年になってくると理科や社会などある程度専門の先生が入ってくる。タブレットをもらった小学校3年の孫が、プレゼンなど授業で取り組んで、自分たちの班で研究して、それをタブレットの中に入れて発表することをしていましたが、これは我々が小学生の時代とは異なっている。しかし、低学年の「読み、書き、計算」の基本的なことは身につけていただかないといけないと思う。小中一貫校になって、進め方が早くなっているのか分からないがどうでしょうか。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校は小学校で決められたことがあり、それを全部一応こなさな</li> </ul>

	<p>ければいけない。こなした状態で中学校へ送り出さなければいけない。実際には身につけてない子どもが、1、2割くらいいるが、施設一体型は9年間の中でフォローアップできるメリットがある。教育に対する指導内容、指導方法は国がきちんと定めているものがあり、それに則って小中一貫校で学ぶ。施設一体型で繋がったとしても、大きく変化するという事ではない。</p>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小1ギャップや中1ギャップ、その先の高1ギャップもあると思うが、高1ギャップ、社会人ギャップに対応するための強い精神を持った子どもを作るための教育ということ、この小学校・中学校の段階で下地を作っておかないと、結局高1になった時に、不登校になってしまう。要は打たれ弱い子に育ってしまう可能性がすごく強いのではないかと、この何回かの会議を聞いていて思ったので、そこに対する教育もこの9年間に必要ではないかと思う。</li> <li>・学区について、施設一体型になった時は、学区を分けることなのか、それとも一つの学校を作るのか、またはそれぞれの小学校区に3つの学校を作るということなのか。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進め方の形は、教育委員会でもこの研究会でも示していないので、皆さんからご意見いただけるとありがたいが、将来的に新しい学校を作った方がいいだろうとか、あるいはもう少し早めに作る施設一体型のために、とりあえず今ある施設で、二宮小と二宮中を一緒にするなど、色々考えはあると思う。何を当面目指すかによる。最終的には場所や財政的なことも考えることになる。</li> </ul>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校再編というのは、どの時期を見越しているのか。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・のちほどロードマップを示すが、いつから施設一体型を始めるかに関わってくる。一方で小規模校をどうするか、子どもの人数のことも関わってくる。</li> </ul>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の視点で、今の分離型の取り組みの実感については、今年から始まったからといって、すぐに変わることはないだろうと思う。子どもの方から「今日、中学校に行ったよ」という話があれば、それが保護者に伝わって小中一貫の取り組みが進んでいることを実感するのだと思う。ですので、今の取り組みを続けていってほしいと思う。</li> <li>・PTA や子ども会については、小中一貫の取り組みとは別に考えるのではなく、今の保護者の考えや、社会の流れに合った形で、より良い形でできるように、子どもたちの育成という部分を学校とはまた違った部分で支えていく大事な取り組みなので、保護者の方でもし</li> </ul>

	<p>っかり一人ひとり考えられるように、色々な情報を発信していく必要もあると思う。</p>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み書きの事について、先日お話をいただいたニールセンさんと話をしたときに、デンマークでは今、逆に手書きを尊重するようなことを言っていた。端末になると記憶が定着しないとか、書くことが下手になってしまい、より書きたくなくなってしまうようだ。読み書きそろばんみたいな基礎体力としてのアナログが大事という考えになっているようだ。</li> <li>高校ギャップについては、義務教育をどう再編していくかによって、あまねくすべての生徒たちに、一定のクオリティの教育を届けつつ、そのギャップを減らすかというところには結構手が出せるが、どの高校と言ったときには選択肢が広いので、まずは中学のギャップを何とかしたいということがある。それをどう乗り越えるのかというと、自己肯定感のような、自分に自信を持つようなことがあればいいのかなと思う。そもそも中高を一緒にするというソリューションは確かにあるが、カリキュラムの中で、一人ひとりが意見を言い、それに対してその意見いいねということをやりたい。自己肯定感を持つことは、指標として見ていかないといけないと思う。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>高1ギャップについては、小松先生の講演の中で、高校生の力のなさ、大学生の力のなさ、それは学力面だけではなく精神も含めてということでの講演だった。そこからスタートし、研究会の中で目指す子ども像を考えたときに、町として責任を持ってやらなければいけない義務教育の中で、どんな力をつける必要があるかというところで話を進めてきた。その力は、小中で終わる力ではなく、未来に向かった力として育ってくれないと困ってくる。そのための施設一体型と考えている。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>すでに取り組みされていることで、教育委員会や学校で何かあるか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の時間や給食の時間にオンラインで交流した。</li> <li>山西小一年生が一色小に訪問した際は、一色小の全学年と交流した。</li> <li>学校と教育委員会でどんな交流ができるか考えている。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年間でそろそろ終わり、成果が積み重なっていると思う。私たちが欲しいのはデータではないか。子どもの声、先生の声、地域の声、保護者の声を少しずつ集めて検証していく時期になってくると思うので、教育委員会にはぜひお願いしたい。</li> </ul>
<p>(2)「小規模化の解消と施設一体型の意義」と「不登校対策での施設一体型の意義」について (資料2)</p>	

会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校については施設一体型で、ある程度できることがあるだろう。小規模化については施設一体型を作っていく過程で、小規模校への課題をできるだけ対応できるだろうということです。(資料説明)</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度の不登校の数はどのくらいか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生32名、中学生54名、合計86名です。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これは学校基本調査の数値ですか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動・不登校調査という毎年1回行っている全国規模の調査です。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基準は、何日以上欠席か。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じて30日以上です。連続して7日以上の場合に報告義務がある。連続7日以上休んでも30日に満たない場合は、この数字には入っていない。これは、全国的にも24万人から29万人に増えているので、全国同じような状況で二宮町も増えている。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校経験者の声では、学力保証を得られにくいことによる不安がある。これは学校以外では得られにくく、フリースクールは出席扱いになりにくい。二宮町の場合、出席扱いになるか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・条件を満たせば柔軟に出席扱いにしている。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設一体型小中一貫教育校が非認知能力を高める場であることは、データの的にも証明されている。昨日の毎日新聞で、能登の避難所で、高校生が小学生の面倒を見始めたという。高校生は安心につながり、小学生は大人ではない近い年齢の人に面倒を見てもらうことに喜びを感じられるとのこと。先ほどの高1ギャップや社会に出た時にこういった非認知能力が働く。</li> <li>・小規模校について、教員の数は学級数により配置される。数が少ないと、免許があれば専門外の教科を教えることになる。</li> <li>・2クラス以上あればクラス替えや担任替えができ、人間関係などで課題が起きた時に子どもを救う手立てを講じられる。</li> </ul>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校の課題の中にあつた部活動の地域移行について、二宮町ではどのように考えているのか。また学校規模にかかわらず、学校の数で配置される養護教諭や事務職員の数は多分減ると思うので、学校運営に影響はあるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度から移行期間として3年間位置付けられており、外部指導者にご協力いただき、10月に4～5回、外部指導者のみで指導してもらった。今はアンケート実施して、次年度どのような形にするか試行している段階。対象部活動は、二宮中は剣道部、卓球</li> </ul>

	<p>部、二宮西中はソフトテニス部。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長、教頭の数は、1校になれば一人ずつ。養護教諭も一人、教員の数はクラス数に応じた数になる。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設一体になると教頭が複数になることはあるか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのようなことは聞いていない。一人だと認識している。</li> </ul>
教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教頭を複数配置することは、県教育委員会との交渉次第だと思っている。教員の数については、小学校の部分と中学校の部分の定数は、それぞれ別々にカウントするので、小中一貫校になったとしても小学校の学級数と、中学校の学級数に応じた教員の配当が来る。ただし、養護教諭や事務職員は減る。子どもの数によって複数配置ということもあるので、児童数全体の数に応じて配置される。</li> <li>また、参考として、町から県教育委員会に申し出をすると、複式学級の解消という形で、教員が加配される制度がある。例えば5人と9人の2学年が一つの学級があるとすると、本来は教員一人の配置になるが、教員二人配置されることになる。</li> </ul>
<b>(3) 設置時期について (資料3)</b>	
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にのみや学園を実現していく中で、コミュニティ・スクールやPTAの一体化をどのタイミングで行うかなど議論していく必要があるだろうと思い提案した。昨年度視察した三鷹市の場合は、最初コミュニティ・スクール委員会のようなものを設置して、一体化を検討するような場面があった。</li> <li>・資料3の最初は、来年度からコミュニティ・スクール委員会を設けて、その中で二宮小と二宮中を一体化していくことを、前段でやってみたらどうか、提案をさせていただいたという資料。実際には、学校の方でも検討していただいて、今のところ時期尚早ではないかということで、検討の方向性としてはあり得るけれども、来年度すぐにはではないという決断があったと聞いている。</li> <li>・ロードマップについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つは、二宮中学校はある程度規模があるので、二宮中で二宮小と一体化しつつ、にのみや学園という少し小さな学校を作り、山西小、一色小、二宮西中が入る。そしてそこが拡張できるような考え。具体的な場所の案はないが、仮にどこかの場所となった場合、その学校に行くのであれば、ここに引っ越したいということで移住も考えられると思う。2030年に1校できるならそれより7年、8年ぐらい前には、移りますとアナウンスしないといけない。</li> </ul> </li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう一つは、小規模に一体型が難しい場合、2040年に1200人の学校を一つ作るその手前で、何かできないかということで、できる限り早急に小中一体化したらどうかという考え。学区の問題で考えたときには、山西小ができる前の学区に戻すような考え方。二宮中と二宮西中にそれなりに人が多くいて、一定の一体化を体感しつつ、カリキュラムの成果も出て、最終的な一本化が図れるのではないか。</li> <li>・学区再編も含めて考えつつ、必ず学区の中に学校を残すということでもなく考えていけるといいと思うし、何よりそれを早め早めに伝えていくことや意見をもらうことが大事。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よい成果があるならば2040年まで待たずに作っていきたいと考えている。今結論を出すというものではないが、2040年に縛られることなくできるのではないかな。</li> </ul>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場所について、二宮西中は津波に飲まれる可能性がある。山西小もハザードマップに入っているので崖を整備しなければいけないということはあるが、山西小の方が、中間点にあり位置的によいと思う。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段階的にやることに対して、ご意見をいただき提言書を作るにあたり盛り込みたい。学区をどうするかは決定する権限が無いので、ここで議論することではないと思う。</li> </ul>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算面から考えると、5校を維持するのは難しいと思う。施設を減らして、集中的に予算を投入し、よりよい教育環境にする考え方もあると思う。</li> </ul>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こうしていくことのメリットは、どのタイミングでどの学校がということも明確になっていくので、2030年にこの学校が空くならどのように使っていくかという議論が、7年、8年前からできる。</li> </ul>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1は新たに作る案ですか？</li> </ul>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうです。</li> </ul>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年に学区再編について、地元から批判があった。梅沢は二宮小に通っているが、文化伝統的なことで地域の催し物は山西と一緒にしている。学区再編をすると、平成30年と同じようなことになると思う。文化伝統を考慮して、地域に入って説明をし、地域の理解を得るようにしていく必要がある。こういった提案があるよというくらいに留めておかなければいけない。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決まったことではないので、提言書の中でも書き方に気をつけます。</li> </ul>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さきほどの予算の話はすごく大事なことで、バス代がこれだけかか</li> </ul>

	<p>るなったときに、では山西学区を守るのかということをしっかり議論しないとイケない。現状がいいと思ってしまうが、そこに人数や必要な予算を書くことが必要になってくる。前提としては全員納得する案は無理だろうと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 本日衝撃的だったのは、令和4年の不登校の数。これをどうしたらいいのかと考えた時に、一つのソリューションとして一体化があるような気がしている時に、2040年まで、1校になるのを待っているのは、本当にそれで大丈夫かという気がした。町の人たちがそういうことも踏まえて話をし、それでも動かないと言うのなら、それもそうだなと思うけれど、そのような意見交換をしていけたらよいと思う。以前と状況が変わっており、思ったほど子どもの数が増えていない。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 平成30年の時は、話し合いの場が少なかった。また、年齢層に配慮しないで意見聴取をしていた。今若い方が増えている中で、これからの子どもたちの未来を考えたときに、伝統と将来の兼ね合いで、何を大事にして、何を一つ我慢しておくかというところを協議して、子どもたちのためにということで、考えていきたいと思う。</li> </ul>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 研究会として大事にしたい理由を示せたら良いと思う。小規模校には良さもあり、デメリットもある。良さをとるならそのまま残していくことになるし、でもデメリットの方を大事に考えるとしたら学校をまとめていくことになる。子どもたちにとっての環境を大事に考えるということも一つの考えだと思う。だからこそ、例えば山西小と一色小が一緒になって、西中がずっと2学級でいくことがわかっているのであれば、小中でまとめるよりも、中学校一つの方が、よいのではないかと思うところもある。伝統や祭りを地区でまとめてやることも良さと感じながらも、やはり小規模校のデメリットがすごく重いのではという気持ちもあり、部活やクラスが増えるという方がこれからの子どもたちにとっては大切なのかなと思う。その部分を丁寧に、意見を出しあっていたらよいと思った。</li> </ul> <p>研究会としてどこがとても大切かということ、住民に向けて本当に真摯に伝えるメッセージも一緒に出すことが大事。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 第1回目の小松先生の講演会の中で、大事なことを教えていただきました。「〇〇をしますだけではなく、〇〇の為にしますということが無ければ納得が得られない。」子どもたちを中心に、子どもたちが幸せになるためにということ、様々な講演等の中で私たちは学</li> </ul>

	<p>び、感じてきた。ここを第一に考えて、ぶれることなく、何をしたいらよいかということ、引き続き考えていきたいと思う。</p>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 29、30 年の学校統廃合の検討委員の一人だった。何ができなくなるかということより、そうすることで何ができるようになるか、それをみんなで考える。子どもたちのために、各家庭、地域もちろん、子どもたちのために地域として何ができるかを考えていく。平成 30 年度とは違い、小中一貫教育校という新たなソースが加わった、そしてこの素晴らしいメンバーがいるので、喧々諤々考えていけば、きっと良いアイデアが生まれ、いい案ができて、そして、全員が賛成ということはないかもしれないが、地域住民の納得が得られるいいものができるのかなと期待している。これは本当に待たなし、一刻も早く取り組み、町民の皆さんにお示しをしていかないといけないだろう。大事なのは、子どものためにということを外さなければ同じベクトルで進めていけるだろう。</li> </ul>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に戻って十分に理解を得ないといけないと思う。保護者は小中一貫校について理解していない。また、二宮で生まれ育ったエリアと開発で入ってきたエリアがあり、二宮で生まれ育った歴史があるので愛着というか、そういう人たちもいるということ念頭に置いて、子どものためにということならば、誰も駄目ということはないけれども、考慮していく必要がある。</li> </ul>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域分割については相当難しいと思うので、2030 年に二宮中ブロックに入れる必然性が分からないので、このままでよいのではないかと思う。</li> </ul>
教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>段階的なロードマップを示していただきたい。その道筋のどういったところが最適なのかということも皆さんに意見を出していただき、参考にさせていただけたらありがたいと思う。</li> <li>不登校の子どもたちが非常に多くなっていることに対しては、当時と状況が変わってきている。大和市でも、不登校特例校を作り、今は名前が変わって学びの多様化学校になったが、そういったことも視野に入れる必要があるだろうと思っている。ただ教員の配置は、子どもの数、教室の数によって決まる。子どもの学びを保障するには教員の数が必要で、大和市も加配を要求したが不登校特例校も例外はなく、市独自で教員を配置できるかについては非常に難しいということのようです。二宮町ができる町の規模に合った学校をどうやって作っていくか、にのみや学園としてどういった方向に進んでいくかということについて、研究会の中で出てきた案をたくさん採</li> </ul>

	<p>んでいただいて、段階的なロードマップを正式に固めていくということができればありがたいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育は何をやっているか分からないという声があるが、誰一人取り残さない教育をして、子どもたちの学びを保障している。子どもたちに対して、私たちが一番できることは授業改善であるということで、子どもたちが自己実現できるような授業をどうしたらいいか、吉新さんを授業力向上アドバイザーとして招きまして、自分が話をすると、友達が聞いてくれる、また友達の話をも自分たちが聞けるといったところを保障する授業の時間をたくさん作ることによって、不登校を減らすといったところにも注力していきたいと思う。ICTという子どもたちが楽しいと思う授業は、学校に引きつける魅力の一つとしてあるが、やはり私たちが深めていった研究の成果というのは、子どもたちの言葉を先生たちが一人ひとり丁寧に拾っていくこと。先ほど話にあったように学力状況調査のポイントがすべてにおいて上がっていること。そういったところが、地に足をつけた二宮町の教育として、学園のいいところだと発信していく必要がある。ホームページにも小中一貫の取り組みや小小プロジェクトなどについて発信しているので、ご覧いただき、また学校に足を運んでいただいてもよいので、状況を把握していただき、今後ののみや学園の方向性に対して少しアドバイスをいただける案を出していただければありがたいと思っている。</li> </ul>
<p>会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善の話が出たが、すべての子どもがその授業改善の恩恵に浴するということがポイントになってくると思う。そういう意味での、今日の研究会だったと思う。ぜひ分離型での良さを発信して、データとして示していただければありがたいと思う。</li> <li>・子どものことを考えるのは、町全体にとっての先行投資と考えている。本当に欠かせないポイントだと思っているので、また次回意見を出し合っていきたいと思う。</li> <li>・次回ぐらいから提言書について考える。提言書の素案を皆で一緒に作成したい。皆さんに日程を投げかけるので出席できるようにであればご連絡ください。</li> </ul>
<p>4. 閉会</p>	